

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆世界の社債発行、過去最高540兆円 金融緩和がAI・脱炭素投資に拍車

・世界の企業が成長投資を加速している。中長期の資金調達する社債の発行額は2025年に前年比11%増の3.4兆ドル(約540兆円)と5年ぶりに過去最高を更新した。AI(人工知能)向けデータセンター投資に加え、自動車などで脱炭素投資が目立った。世界的な金融緩和に加え、高い利回りを求める投資家の旺盛な需要も支えとなった。

◆金融庁、銀行の大口融資規制を緩和 上限超えを一時許容しM&A促進

・金融庁は銀行による融資額を自己資本の一定割合に抑える大口融資規制を緩和する。一時的に巨額の買収資金が必要な場合に、融資上限を超えることを認める。大型のM&A(合併・買収)が増えていることに対応し、銀行が企業の成長を支援しやすくする。現行の規制では、1社への与信総額の上限を銀行の中核的自己資本の25%までと定めている。

◆残業できる「三六協定」締結は5割どまり 働ける環境整備は途上

・「働き方改革」で強化した残業規制の是非が議論に。経済成長の足かせになっているとの声があり、高市早苗首相が設けた成長戦略会議で見直しを議論する。残業のための「三六(サブロク)協定」を労使で結んでいる事業所は5割どまり。規制のために残業を控えているケースは実際には少なく緩和は不要との見方もある。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆25年の工作機械受注、3年ぶりプラス 8%増の1兆6039億円

・日本工作機械工業会が発表した2025年の工作機械受注額(速報値)は前年比8%増の1兆6039億円。年後半にかけて海外向けの受注が拡大し3年ぶりのプラス。国内向けは停滞が続いた。海外向けは12%増の1兆1634億円となり、2年連続でプラスを維持。北米の航空機産業や自動車向けが堅調で米国の関税政策を反映した値上げも受け入れられた。

◆三井不動産、マンション営業社員を土日祝休みに 一部物件で導入

・三井不動産傘下の三井不動産レジデンシャルはマンションの営業担当社員を土日祝定休にすると発表した。5月から一部物件の担当社員に導入する。同社によると、営業社員の土日祝定休は業界で初という。オンライン商談の活用やモデルルームの見学を自由にすることで社員の休日を確保し、労働環境を改善する。

◆冬の風呂「寒暖差」注意 高齢者、血圧変動でヒートショック事故多発

・冷え込みが厳しい時期は高齢者の入浴事故が後を絶たない。主な原因は急激な温度変化に伴って血圧が変動し意識障害を起こすヒートショック。厚生労働省が2025年9月に公表した24年の人口動態統計(確定数)によると、自宅などの浴槽で溺れて亡くなった人は前年比1割増の7776人。このうち95%(7363人)は65歳以上の高齢者が占めた。

《 注目商品 》

■シャープ、「つけかえどっちもドア」搭載プラズマクラスター冷蔵庫

・シャープは、独自の「つけかえどっちもドア」を搭載した冷蔵庫3機種を発売。179L/152Lのコンパクトな容量帯で、單身世帯におすすめ。冷蔵庫の設置場所にあわせて、ドアの右開き・左開きを選択することが可能。部屋の模様替えや引っ越しなどで設置場所が変わっても安心。



■パロマ、家事ラク・快適性を叶えるコンロ・給湯器シリーズ

・家事ラク・時短・快適を両立させた新ブランド「Paloma GRAND Series(パロマ グランドシリーズ)」を始動。「驚きと感動と、ワンランク上の心地よさ」がテーマ。厨房機器としてビルトインコンロ「クレア」「アバンセ」「フェイスグランド」「ウィズナ」をラインアップ。



■ダイケン、「スライデックス ソフトクローザー」シリーズよりレール壁付けタイプ

・開けた扉が自動でゆっくり閉まる引戸クローザー装置「スライデックス ソフトクローザー」シリーズより、レール壁付けタイプの「HCS-OJSC352」と、レール天付けタイプの「HCS-JSC35TS2」の2種類を発売。扉の全開状態を保持できる「戸袋用全開ストッパー」搭載。

